

# 一般社団法人 日本リンパ浮腫治療学会 特別関心活動グループ

## I. 経緯

日本リンパ浮腫治療学会は、2016年に設立され8年が経過した。本学会は、様々な職域による専門家が所属することから、専門性をいかした情報交換や討論を通して深く学び合うことが可能である。国内外の他学会では、同様の関心領域を有する会員同士が集い、明確な活動目的のもと、学会に位置づく専門家グループ「特別関心グループ（Special Interest Group：以下 SIG）」があり、本学会においても SIG を立ち上げることにした。

## II. SIG の概要

### 1. 活動目的

SIG は、日本リンパ浮腫治療学会の組織内グループとして学会員のための活動グループとし、本学会の目的に沿い、以下を SIG の活動目的とする。

- 会員間のつながりの強化による研究・臨床におけるネットワークの構築
- 専門家集団による特定領域の最新知見や臨床推進につながる情報交換や議論の場の提供
- 特定の問題に関する専門家集団のコンセンサスの形成によるリンパ浮腫医療の質の向上

### 2. 活動概要

SIG は、学術総会やセミナー・イベントなどの企画運営を通じて、関心テーマに集う学会員のネットワークづくり、会員同士の情報交換会、SIG 内の熟練者を招いての学習会などにより関心テーマへの学習をさらに充実させる。

### 3. 設置意義

SIG は第一義的に日本リンパ浮腫治療学会会員の学習の機会を増やし、会員間の連携強化を意義とする。二義的には会員としての成果を社会に還元することで、社会及び地域貢献への一助となる。

### 4. 組織内の位置づけ

SIG 小委員会は、総務委員会の下位部会に位置づく。SIG 委員会には、委員長および委員をおく。委員長は評議員のうちから理事会の議を経て理事長がこれを委嘱する。委員は、評議員または会員のうちから委員長がこれを委嘱する。

SIG 委員会の役割は、各 SIG の新規 SIG 立ち上げの統括、事業・活動の掌握である。

### 5. SIG の活動

SIG は会員5名以上で1つの活動グループを形成し、学会内でメンバーの公募を行う。新規 SIG 立ち上げる場合は、申請者（会員）が新規 SIG の申請を SIG 委員会に行い、SIG 委員会が理事会に答申し、理事会の承認を得る。各 SIG には、世話役1名を委員の中から置き活動を推進する。

各会員一人が参加できる SIG は2グループまでとする。

## 6. 日本リンパ浮腫治療学会 新規 SIG の原案

### ① Compression therapy SIG

多職種の会員が参加でき、圧迫療法について圧・伸び硬度・形状などについて学び、患者にとってより良い方法について新しい知見を含めて議論を行う場とする。

### ② Lymphatic drainage SIG

多職種の会員が参加できる。言語化しにくいリンパドレナージの方法や効果について、専門家の議論により一定の指標や新しい方法の開発などを学びコンセンサスを形成する場とする。

### ③ Skin Care SIG

多職種の会員が参加できる。保湿のみではないより積極的なスキンケアの開発や臨床における知見などの議論を行い、勉強会や学会発表を通じて一步進んだスキンケアの構築を考える場とする。

### ④ Nursing Care SIG

看護に関心のある会員を中心とし、リンパ浮腫ケアの中の看護の役割について議論を深め研鑽を行う。主に患者の心理や QOL、看護理論に基づく患者教育、予防教育について、データベースの構築やアセスメントツールの開発を行い、勉強会やディスカッションを行いコンセンサス形成の一助とする。

### ⑤ Exercise SIG

運動療法に関心のある会員を中心とし、リンパ浮腫患者の運動機能についてコンセンサスを形成できる場とする。

スライド資料は、QR コードからダウンロード可能です。



配布資料形式  
(4スライド/枚)



スライド形式  
(1スライド/枚)

一般社団法人 日本リンパ浮腫治療学会  
特別関心活動グループ (SIG) 小委員会

増島 麻里子、松原 忍、佐々木 由香  
徳川 奉樹、渡辺 直子、小野部 純